別紙様式第５－１号

編 修 趣 意 書

（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
104−119	小学校	算数科	算数	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・212 算数・213	新編 新しい算数 ２上 考えるって おもしろい！ 新編 新しい算数 ２下 考えるって おもしろい！		

1 編修の基本方針

じっくり考え、学びを楽しみ、しっかり身につける

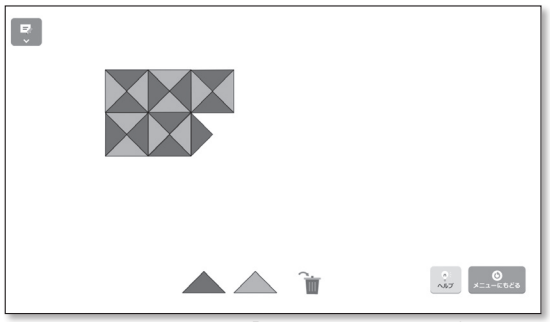
次世代を担う子どもたちには、予測困難な社会の中でさまざまな未知なる課題に向き合い、他者と協働しながら解決し未来を切り拓く力が不可欠です。
「新編 新しい算数」は、教育基本法の目的及び理念を踏まえ、幅広い知識と教養を身につけ、創造性を培い、筋道立てて考え自立的、協働的に課題を解決する力を養うことができるように、次のような基本方針を特色として編修しました。

特色１ ICT のよさも生かした深い学びを実現

（１）教科書の内容に即した QR コンテンツの質・量の充実

❶ 動画、シミュレーション、演習などの豊富な QR コンテンツの設定

☞ 第２学年では、繰り返し確認したい筆算の仕方や直線のひき方などの**動画**、教具の操作で思考を支援する**シミュレーション**、**練習問題デジタル版**など、学びを支援する QR コンテンツを全部で **241** 設定しました。
対面授業、**オンライン授業**、**家庭学習**など、シーンを選ばず活用することができます。ICT 機器で教科書紙面に掲載した二次元コードを読み取れば、簡単に活用することができます。
本資料の本頁下部にある二次元コードを読み取ると、各巻の QR コンテンツにアクセスすることができます。



▲上 p.110　QR コンテンツ「すきまなく ならべよう」

❷ 個人を尊重し、その能力を伸ばす学びの支援

☞ 計算問題等の演習コンテンツには、**自動正誤判定**や**結果の記録機能**などをもたせました。
個別最適化された学びを支援し、能力を伸ばすことができます。

❸ 教師の指導・評価もサポート

☞ 例えば、シミュレーションコンテンツ使用時に、スクリーンショット機能を活用して子どもの端末の画像を収集したり共有したりすることにより、一人一人の思考の様相をより的確に把握し、指導や支援、学習評価に生かすことができます。

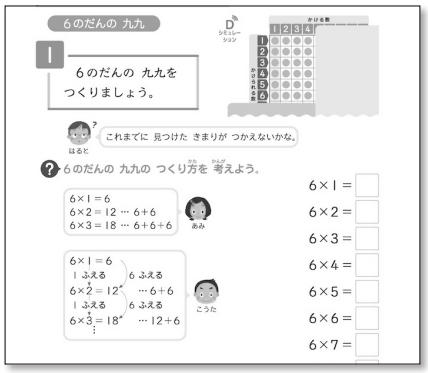
2年上 QRコンテンツ

2年下 QRコンテンツ

特色 2　思考力・判断力・表現力、知識・技能 を育むための質・量の充実

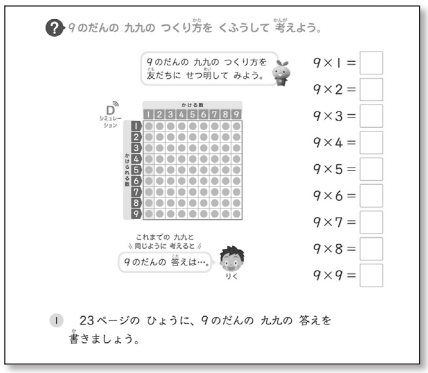
(1) 資質・能力を育むための単元設計

☞ 算数科の単元には、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせながら資質・能力を高めていく単元があります。「新編 新しい算数」では、特にこのような特性が顕著な単元で、**単元の前半は吹き出し、補助発問などを丁寧に設定し、中盤から後半にかけてはそれまでに育った資質・能力を駆使していっそう高めることができる**ように、あえて吹き出しや補助発問等を段階的に減少させる設計としました。
これまでの特長である**丁寧さ**を継承しつつ、紙面の**シンプル**化もはかりながら資質・能力を高める新設計です。



▲下 p.27　6 の段の構成

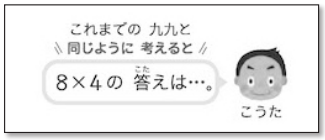
学習が進むと →



▲下 p.33　9 の段の構成

(2) 「既習を生かして考えること」を促進する吹き出し ＼ 同じように考えると ／

☞ 算数の学習を通して、**未知の課題に対して、既習を生かして考える力**を育みたいと考えます。そこで、**既習を生かして同じように考えることを促進**しつつ、**考え方は書き示してしまわない**吹き出し ＼ **同じように考えると** ／ を随所に新設しました。



▲下 p.31

既習を生かそうとする態度を育み**思考を活性化**させることと、自分で考えることとを両立させています。

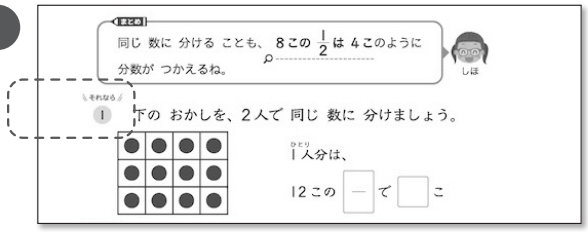
（その他の箇所の例）
上 p.96、97、107、下 p.33、75 など

(3) 「学習したことを基に発展的、創造的に考えること」を促進する ＼ それなら ／

算数の学習を通して、**既習を発展させ新たな課題を見出し解決しようとする態度や力**を育みたいと考えます。そこで、「新編 新しい算数」では、新たに次の 2 点に取り組みました。

❶ まとめの後の補助発問 ＼ それなら ／

☞ 問題解決の後、さらに学びを深めるための補助発問として随所に設定しました。理解深化や、問題解決の際に働かせた**数学的な見方・考え方の価値の再確認など有機的な学習の振り返り**にもつながります。

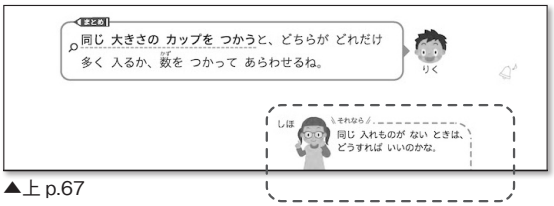


▲下 p.85

（その他の箇所の例）
上 p.61、95、下 p.54、60、87 など

❷ 1 単位時間の最後に位置づく吹き出し ＼ それなら ／

☞ 授業の終わりに、次時の学習内容を創造している子どもの姿を適宜例示しました。



▲上 p.67

（その他の箇所の例）上 p.40、95、下 p.34、82 など

(4) 問題との価値ある出会い、自立と協働、主体性を重視した「今日のふかい学び」

今改訂では、問題との出会いの過程および自立的、協働的に問題解決に取り組む態度や力の育成をさらに重視し、次の２点に取り組み、従前より設定している「今日のふかい学び」をいっそう進化させました。

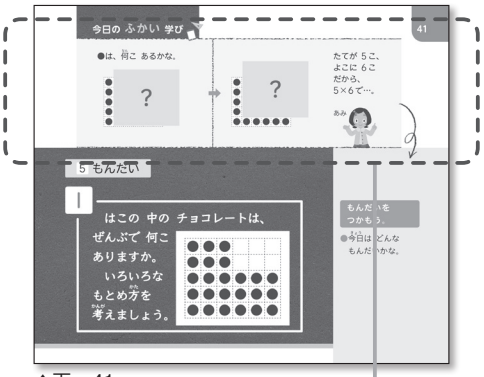
❶ 数学化（問題との出会い）の過程を可視化

☞ 問題提示の配慮や工夫について、**学習の連続性を基盤とした創造的なもの**としている先生方の優れた実践を基に可視化しました。創造的に次の課題を見出す力の育成も目指しています。

❷ 協働的な学びの過程をいっそう重視

☞ 協働的な学びによる練り上げの過程では、**自分の考えと他者の考えの比較・検討に主眼**を置きました。展開の主眼を一問一答による内容理解から発展させ、より深く考えることを重視しています。

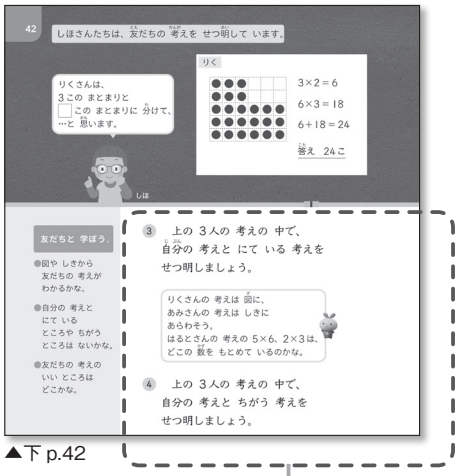
①



▲下 p.41

まず、既習のポイントである縦の数（１つ分）と横の数（いくつ分）を順に提示し、かけ算で個数を求める際に必要な条件にあらためて着目します。その上で、Ｌ字型の問題に出会います。

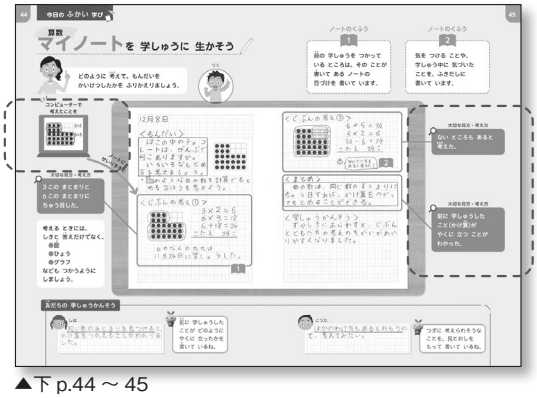
②



▲下 p.42

協働的な学びの過程における補助発問は、「自分の考えと似ている考えを見出し、図や式などを用いて説明する」といった、内容の理解と深い考察の両方を促進する内容です。

なお、ノートづくりやその活用も併せて重視しています。
巻頭「学びのとびら」（上 p.6〜7）では**ノートづくりの例**を、「今日のふかい学び」では**ノートの活用の仕方の例**を示しています。
具体的には、**ICT 機器を活用して考えた際にもノートをその整理の場として活用すべき**ことや、**大切な数学的な見方・考え方の振り返りと自覚**を強調しました。



▲下 p.44 〜 45

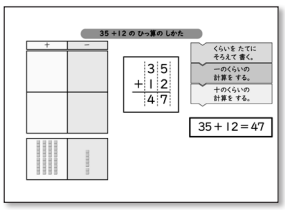
(5) 授業開きで問題解決の方法を体感する「学びのとびら」の設定

上巻の巻頭には、授業開きでの活用を意図した「学びのとびら」を設定しました。p.4〜5 では、以後の学習の土台づくりとして、問題解決の方法やその際に大切にすべき視点などを、実際の授業を通して体感することができます（上 p.2〜7）。

(6) 生きて働く知識・技能を身につけるための配慮と工夫

❶ 繰り返し何度も取り組みながら定着させるための QR コンテンツを設定

☞ 第 2 学年では、例えば加減法の筆算の仕方、かけ算九九などについて、以後の学習を見据えて確実な定着が求められます。そこで、**筆算の仕方を確認するための動画**や、**繰り返し取り組んで習熟をはかるための練習問題**等の QR コンテンツを豊富に設定しました。なお、筆算の仕方の動画では、ブロック化した図によってアルゴリズムを表現し、**プログラミング的思考**の土台を築くこともできるようにしています。



▲上 p.15 QR コンテンツ「35 ＋ 12 の ひっ算の しかた」

❷ 復習の適切な設定

☞ **自社作成の学力調査**をはじめ**各種学力調査結果を分析**し、特に**理解、定着度が低い内容を中心に復習するページ**「おぼえているかな？」を設定しました。**朝学習**や**家庭学習**用の教材として活用が可能で、知識・技能の維持、定着をはかることができます（上 p.80、下 p.49、89）。

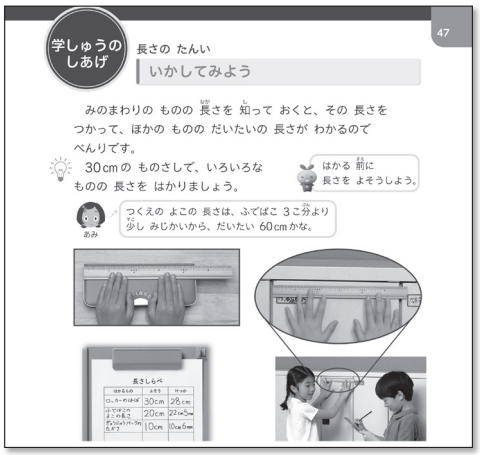
❸ 学力調査の結果に基づいた取り扱いの配慮や工夫

☞ 学力調査において理解、定着度が不十分な内容を繰り返し丁寧に取り扱いました（上 p.57 ❶、下 p.57 ❶、数直線の最小目盛りの確認ほか）。

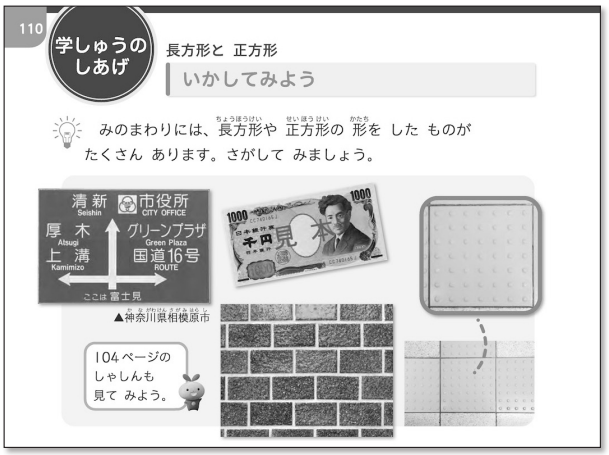
特色 3　学ぶ意義や楽しさの実感による、主体的に学習に取り組む態度の育成

(1) 算数と生活との関連を重視した場面や活動の設定

☞ **学校や日常の生活との関連を重視**した場面設定や活動を随所に取り入れました。算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができます。



▲上 p.47



▲上 p.110

(2) 自己調整力の育成を重視

☞ 「既習を生かせば解決はできるけど、もっといい方法はないか」と考え自己調整する姿を適宜例示し、**よりよく考えようとする態度や力**を身につけることができるようにしました。

▲上 p.69

2 対照表

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	学びのとびら	● 自ら考え表現することを促し、自主および自律の精神を育てるとともに、創造性を培えるようにしました。また、他者の考えを解釈したり互いに考えを検討したりする学習活動を促し、個人の価値を尊重したり道徳心を培ったりできるようにしました（各単元も同様）。（第１号、第２号） ● 授業の規律として、自立的に学ぶ段階、他者との協働で学ぶ段階、および各学習段階での着眼点等を例示することにより、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるようにしました。（第３号）	● 上 4〜7 ● 上 4〜7
各単元	各時の問題や学習活動	● 単元プロローグでは子どもの日常生活を中心に多方面から素材を収集し、学びに向かう意欲を高め幅広い知識と教養を身につけられるようにしました。（第１号） ● 動植物に着目し数を数えるなど、生物に関わる素材を取り上げ、自他の生命を尊重する心が育つようにしました。（第４号） ● 他者と協働して行う計器づくりや測定、協働で行う学習活動を数多く取り入れたり、絵や写真は他者と協働することの楽しさなどが感じ取れるものを掲載したり、２人組以上の活動事例を男女の組で示したりすることにより、男女の平等や自他の敬愛と協力を重んずることができるようにしました。（第３号） ● 九九の歴史や昔の単位について取り上げるなどして、算数・数学のよさや日本の伝統に触れることができるようにしました。（第５号）	● 上 8、12、66、下 2、64、80、90 ほか ● 上 36、95、下14、18、24 ほか ● 上 47、51、67、下9、25、36、68、69、81、86 ほか ● 下 36、64
巻末	ほじゅうのもんだい おもしろもんだい さくいん	● 個の学習意欲やつまずきなど、必要に応じて自主的に取り組む際に用いる教材をふんだんに用意し、個人の価値を尊重しながら能力を伸ばせるようにしました。（第２号）	● 上 113〜127、表 3、下 103〜111、表 3

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

（1）すべての子どもが安心して学力を育むための配慮

❶ 特別支援教育への配慮

☞ すべての文章において**文節改行（読みやすい位置での改行）**を徹底したり、問題やまとめなど**重要事項を枠で囲んだり**しました。また、**独自に開発した 視認性の高い UD 教科書体**を採用しました。さらに、イラスト、写真、図などを、**カラーユニバーサルデザイン**に取り組むボランティア団体の協力を得て点検しました。

❷ 多様性への配慮

☞ **性別、服装、人種等のバランス**に配慮し、個人の属性や価値を尊重する態度を育むことができるようにしました。

（2）GIGA スクール構想下における学びの充実

☞ 授業（**オンライン授業**含む）での活用を想定し、教師用指導書には指導者用デジタル教材も収載する予定です。感染症の流行等の不測の事態においても**学びを止めない**ことを重視し、支援します。

☞ **学習者用デジタル教科書**を発行する予定です。ICT 機器活用のメリットを生かした学びの実現を支援します。

（3）教師への支援

☞ 指導計画案（単式、複式）、展開案、評価規準、板書例、評価問題、教師用の指導者用デジタル教材等で構成した教師用指導書を発行します。**授業の充実と教師の負担軽減の両立**を目指します。

別紙様式第５－２号

編　修　趣　意　書

（学習指導要領との対照表、配当授業時数表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
104－119	小学校	算数科	算数	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・212 算数・213	新編 新しい算数　２上　考えるって おもしろい！ 新編 新しい算数　２下　考えるって おもしろい！		

1　編修上特に意を用いた点や特色

「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」。
「新編 新しい算数」は、算数科の目標を達成するための構成を基盤に、随所に取り扱いの工夫を施しました。

数学的活動を基盤とした各単元の基本構成

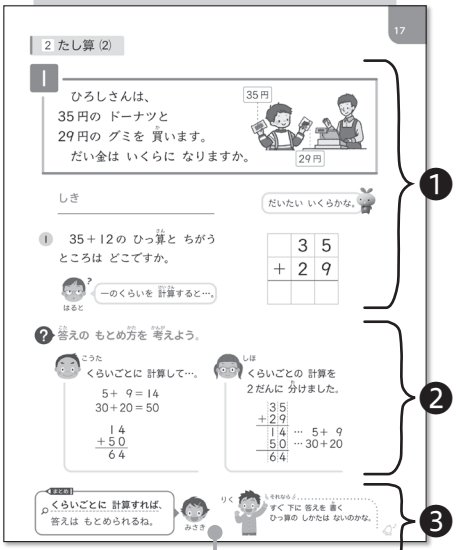
単元プロローグ
日常生活の場面を算数の目でとらえるなどして、算数の舞台に乗せるためのページです。

各時の学習
問題を観察してめあてを創出し、じっくり考え表現してまとめる展開を重視しています。

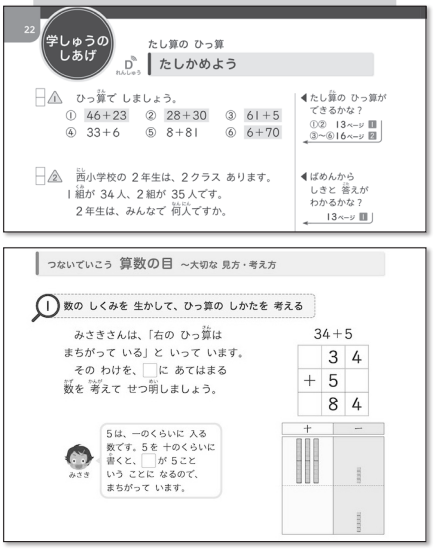
学習のしあげ
単元の最後に、学習を網羅的に振り返ったり、大切な見方・考え方に再度注目したりします。

▲上 p.12

日常生活の話題から既習を振り返り、課題を見出すことにより、**主体的に学習に取り組む**ことができます。



▲上 p.17



▲上 p.22 ～ 23

❶ 補助発問（ I ）や ? 付きの吹き出し（めあてを生むきっかけ）を基に問題とじっくり向き合った上でめあて（ ? ）を創出します。
❷ 式などを用いて**思考・判断・表現する活動**を基盤として展開し、資質・能力を育みます。
❸ まとめでは**本時に働かせた数学的な見方・考え方**（ ）を取り上げます。最後に、原則として練習（ ）に取り組み、しっかり定着させます。側注にはベル（ ）を示し、１単位時間の区切りを例示します。

巻末には、補充問題、発展問題などで構成するオプション教材「新しい算数プラス」を設定しています。個別最適化された学習のための教材として活用することができます。

これまでの「新しい算数」の特長である**丁寧な数学的活動の可視化**を継承しつつ、吹き出しの内容をいっそう精選するなど**シンプル**化をはかりました。授業、自学を問わず、安心して使うことができる構成です。

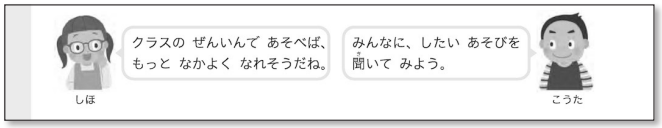
特長的な教材の取り扱いの例

(1) 第1単元「グラフと ひょう」～ 問題解決の文脈を重視 ／ QR コンテンツの活用

① 問題解決の動機を重視

☞「友だちともっと仲良くなるために、みんなでする遊びを考えたい」という場面を設定しました。**学習動機を明確**にし、主体的な学びを促します。

（その他の例）
上 p.12～13、66、下 p.64 ～ 65、80 など

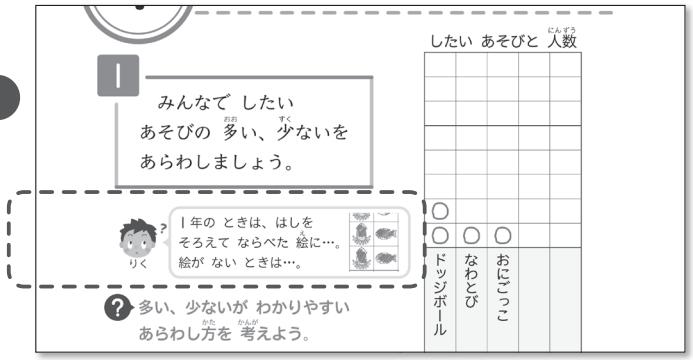


▲上 p.8

② 既習の想起を可視化

☞ 1学年で学習した絵グラフを想起させ、絵がないときにどのようにグラフに表せばよいか、という**焦点化された課題**を生み出すことができます。

（その他の例）
上 p.29 あみの吹き出し、下 p.54 こうたの吹き出しなど

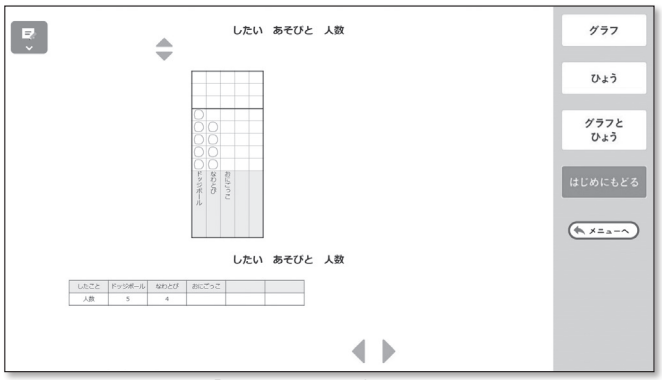


▲上 p.9

③ グラフ作成の QR コンテンツを活用

☞ グラフの各スペースをクリックすると瞬時に〇が書かれます。また、グラフと表を同時に表示し、両者を関連づけて構造を理解することができます。手作業と比してグラフや表の作成時間を短縮することができるため、データの分析に多くの時間をかけることができます。

☞ はじめは教科書に〇や数字を書き、その追体験による確認用としても活用することができます。



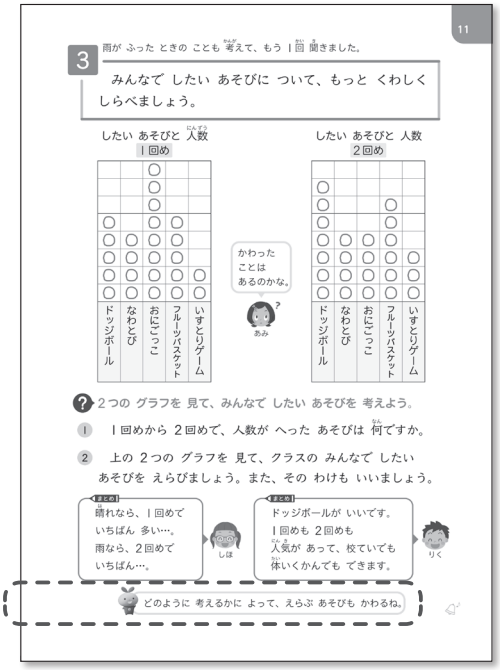
▲上 p.9 QR コンテンツ「グラフを かこう」

④ よりよい方法や結論の追求を重視

☞ みんなでしたい遊びの多少により一度結論を出した後、天候という別観点からも考察し、さらによい結論を追求する場面を設定しました。**過程や結論を振り返り、よりよい方法や結論を求めようとする態度や力の育成**につながります。

☞ 3学年以降のデータの活用領域の学習でも、データ処理の知識・技能だけに注力するのではなく、**学習を生かしたデータの分析や判断などを一貫して重視**しています。
今後、ますます必要となる**統計的な問題解決の方法**の理解や**データを活用して考える力**の育成につながります。

☞ **どのような考え方でデータを分析するかによって結論は変わる**ことについても、2学年の段階から順次触れるようにしています。

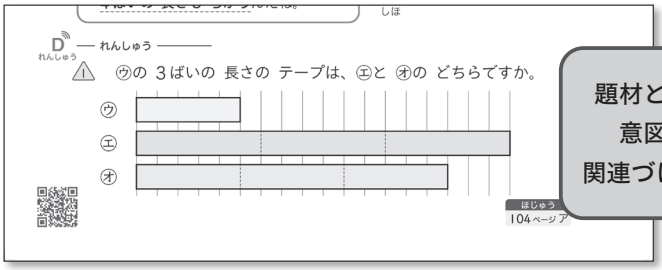


▲上 p.11

(2) 第 16 単元「分数」～ 既習との関連を重視 ／ 以後の学習の素地づくり

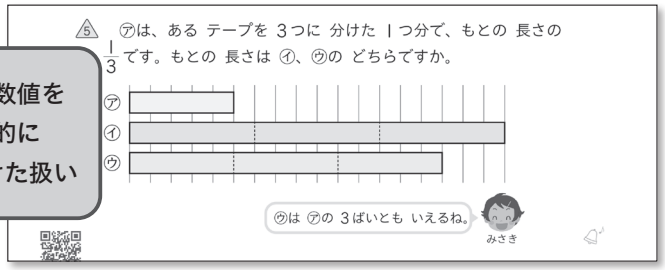
① 既習と密接に関連づけた「割合」の素地づくりの徹底

☞ かけ算の倍の学習における「B の●倍は A」と、分数の学習における「A の●分の一は B」は表裏の関係にあります。そして、どちらの見方も、**「割合」の学習の素地**となる大切な内容です。
一方で、このような見方は決して簡単ではなく、指導には工夫や配慮が必要です。
そこで、先生方の優れた実践を基に、**下 p.40 の倍の学習と下 p.84 の分数における図を連動**させ、同じ図を用いて経験的に倍と分数の関係に着目しやすくなるようにしました。
低学年から、段階的に「割合」の素地づくりをすることができます。



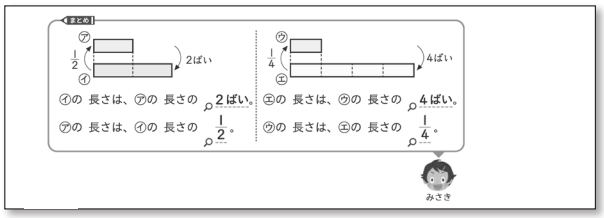
▲下 p.40 かけ算(2)

題材と数値を
意図的に
関連づけた扱い



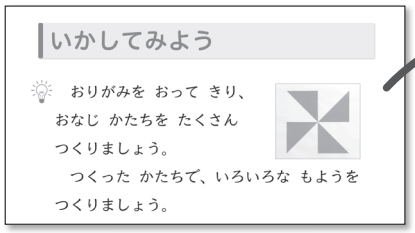
▲下 p.84 分数

☞ 上記の取り扱いに加え、下 p.86～87 では、倍と分数の関係に焦点化した内容を取り扱います。
経験的な学習を通して、いっそう「割合」の強固な素地をつくります。

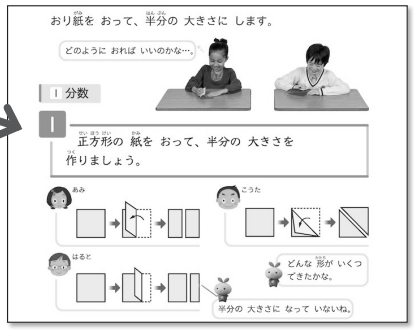


▲下 p.87

☞ 1年 18 単元「かたちづくり」で等分割の素地的活動を設定しているので、2年の「分数」では等分割を意識して導入しやすくなります。



▲1年② p.125

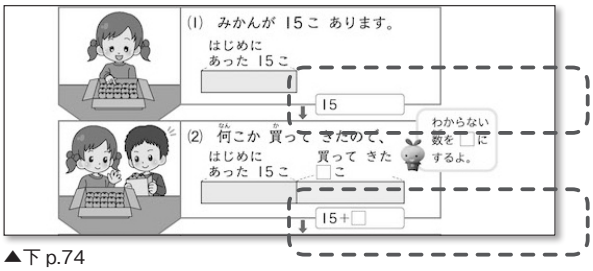


▲下 p.81

(3) 第 15 単元「たし算とひき算」～ 式への表現の素地づくり ／ 加減を統合的に捉えるための工夫

① □を用いた式表現の素地づくり

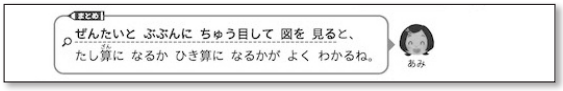
逆思考の場面を図で表現し問題の解決に活用することに加え、□を用いた順思考の式も併記しました。
場面を文脈通りに表現できる式のよさを実感しながら、3年「□を使った式」の素地づくりをすることができます。



▲下 p.74

② 全体と部分（場面の構造）への着目を重視

加減法が適用される場面の構造である「全体」と「部分」に単元導入から段階的に着目できるようにしました。
構造を俯瞰的に捉え、理解を深めることができます。



▲下 p.76

観点別特色一覧

観点	特色	箇所
教育基本法および 学習指導要領の遵守	● 数学的な判断に基づき他者の考えを解釈、検討することを重視し、自他の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました。 ● 資質・能力の育成のための優れた研究や実践の成果をもとに、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を基盤とした学習展開を重視しました。	全体
ICT の活用への 取り組み	＜ QR コンテンツの質・量の充実＞ ● 学習者用の QR コンテンツ数を充実させました（**241** コンテンツ）。授業中の**自力解決**や**集団解決**、**習熟のための演習**、**家庭学習**など、シーンを選ばず活用することができます。 **個別最適化された学び**の実現にも有用です。例えば、以下のような種類のコンテンツがあります。 ・記号や図形のかき方、計算の仕方など（動画）… 17 コンテンツ ・振り返りや各時の演習…194 コンテンツ ・表やグラフの作成、時計操作、図形操作など（シミュレーション）…26 コンテンツ ・その他（端末の使い方、SDGs 関連内容、感染症対策、資料）…4 コンテンツ ・QR コンテンツを設定している箇所には D のマークを付して強調し、一目で分かるようにしています。そして、各ページ下側定位置に掲載した二次元コードを読み取るだけで、簡単にアクセスすることができます。また、いずれのコンテンツも 2 年生の子どもが直感的に操作できる仕様です。 ＜学習者用デジタル教科書の発行＞ ● 学習者用デジタル教科書を発行予定です。 ワンタッチで QR コンテンツを起動できたり、教科書紙面への書き込みや保存ができたりする、学習者の活用に適した仕様となる予定です。 ● 色反転や自動読み上げ、総ルビなどの専用ビューアの機能を使用することで、**特別支援教育**の充実を支援します。 ＊学習者用デジタル教科書の仕様は、予告なく変更することがあります。	● 上 9、16、40、45、53、55、77、103、110、111、 下 8、10、25、41、53、55 ほか
教師の指導、評価 支援（教師用指導書）	● 指導計画（単式、複式など）、評価規準例、展開例、解答例、板書例などで構成した教師用指導書を発行する予定です。 ● 通常の授業をはじめ、**オンライン授業**でも活用可能な指導者用デジタル教材等も付属予定です。 **教師の働き方改革と指導の充実の両立**を目指します。	
学びの系統性・ 連続性	●「単元プロローグ」における既習を振り返り学習課題をつくる活動、問題解決の過程における既習とのつながりへの着目を促す吹き出しや補助発問、後の学習の素地づくりとなる活動などを積極的に取り入れ、学びの系統性や連続性を意識できるようにしました。	● 上9、12、16、37、38、 下5～7、69ほか
知識や技能の 習熟・定着	● 発達段階に応じたゲーム的な活動をふんだんに取り入れ、これらの活動を通して楽しみながら習熟できるように配慮しました。 ● 各時の展開において、数学的な見方・考え方を働かせ既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを適切に設定し、数学的活動を軸とした学習展開を徹底して、知識や技能の断片的な詰め込みにはならないようにしました ● 復習ページ「おぼえているかな？」を適宜設定しました。**自社実施の学力調査**をはじめとする**各種学力調査の分析結果を基につまずきが多い問題を厳選**し、習熟度を維持、向上させることができるようにしました。また、次単元のレディネスとなる問題には じゅんび を付し、**つまずきへの事前対応**に活用できるようにしました。 ● 巻末オプション教材「新しい算数プラス」では、各単元の練習問題と対応した補充問題をふんだんに用意しました。さらに、個別最適化された学びの支援として難易度別に 2 種類の問題を用意し、個に応じて選択的に取り扱うことができるようにしました 「おぼえているかな？」とあわせて、**朝学習**や**家庭学習用教材**として活用することもできます。 ● ICT 活用の一環として、数の構成や加減計算など習熟のための QR コンテンツをふんだんに設定し、即時的な正誤判定、結果の記録、やり直し、全答時のアクションなどを取り入れ、子どもが楽しく主体的に練習し、力をつけることができるようにしました。	● 上51、96、 下9、25、36ほか ● 上4～7、 下41～45、ほか全体 ● 上80、 下49、89 ● 上113～122、 下103～108 ● 上15、16、18、 下32、38、54ほか
思考力・判断力・ 表現力の育成	● 思考し、表現する学習活動を適切に取り入れました。特に、思考を図や式に表す学習活動を重視しました。そのために、**図を段階的に抽象化する過程を丁寧に可視化**し、徐々に活用できるように配慮しました。 ● ICT 活用への取り組みの一環として、問題解決の際に思考や表現を支援する QR コンテンツをふんだんに用意しました。 書いたり消したりといった操作が簡単にできることにより思考を促進したり、よりよい解決を追究しようとする態度や力の育成につながったりします。	● 上14、20、32、55、63、87、 下74～79 ほか ● 上54、110、 下9、13、41ほか

思考力・判断力・表現力の育成	● ノートづくりを重視し、巻頭「学びのとびら」ではノートづくりの基本的な事項の例を取り扱いました。単元内の「今日のふかい学び」では、ノートを用いて本時で働かせた数学的な見方・考え方を主眼に学びを省察することや、ICT 機器を活用した際には、思考の整理の場としてノートを活用することを例示しました。 ● 特に、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせる単元の中後半の吹き出しは、思考を活性化させつつ答えを書き示してしまわないように内容を精選しました。	● 上 6 ～ 7、下 44 ～ 45 ● 上 104 ～ 108、下 27 ～ 34 ほか
主体的に学びに取り組む態度の育成	● よりよく問題解決しようとする姿や、発展的に考えようとする姿を例示しました。 ● 日常生活と学習場面を関連づけ、学習することの意義や学習内容の有用性を実感することができるようにしました。	● 上 29、下 38 ほか ● 上 8、12、104、下 12、61 ほか
組織・配列・分量	● スパイラルに学習することを重視し、加減計算など確実な習熟・定着が求められる内容の指導の学期を分ける、測定領域など同一領域の内容は適切に単元を分けて共通する原理に繰り返し触れることができるようにするなど、単元構成、配列を工夫しました。 ● 特に習熟・定着が求められる単元では相応の練習問題を用意する、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮をしました。 ● 練習問題は、本時の学習内容を適用して理解の確認や技能の確実な習熟・定着がはかれるように、内容と時間を考慮して適切な分量を扱うようにしました。	全体
他教科等との関連	● お楽しみ会、学校での募金活動などの場面を設定し、他教科等との関連を意識した教科横断的な学習をできるようにしました。 ● 属人的な判断ではなく、論理に基づいて判断することを積み重ねることで、自他の価値を尊重する態度を養うなど道徳教育との関連に配慮しました。	● 上 86、91、下50～51ほか ● 全体
特別支援教育への対応	● カラーユニバーサルデザイン、余白を生かした紙面デザインを徹底しました。 ● 自社開発の UD 教科書体を採用し、文字の視認性をよくしました。 ● 軽量な紙を使用し軽量化に努め、また、堅牢で開きやすい PUR あじろ綴じとしました。 ● 拡大教科書を、文字のポイント別に複数種類発行予定です。	全体

2 対照表

配当時数計：148（予備時数 27）

配当月	配当時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当箇所
				〔上巻〕
4	1	○学びの とびら	第 1 学年の内容	2 ～ 7
	3	①わかりやすく あらわそう	D(1) ア (ア) イ (ア)	8 ～ 11
	8	②たし算の しかたを 考えよう	A(2) ア (ア)(ウ) イ (ア) 内容の取扱い (3)	12 ～ 23
5	8	③ひき算の しかたを 考えよう	A(2) ア (ア)(イ) イ (ア)	24 ～ 35
	2	○どんな 計算に なるのかな？	A(2) ア (ア) イ (ア)	36
6	9	④長さを はかって あらわそう	C(1) ア (ア)(イ) イ (ア)	37 ～ 49
	12	⑤ 100 より 大きい 数を しらべよう	A(1) ア (ア)(イ)(ク) イ (ア) D (1) ア (ア) イ (ア)	50 ～ 65
7	8	⑥水の かさを はかって あらわそう	C(1) ア (ア)(イ) イ (ア)	66 ～ 75
	2	⑦時計を 生活に 生かそう	C(2) ア (ア) イ (ア)	76 ～ 79
9	5	⑧計算の しかたを くふうしよう	A(2) ア (ウ) イ (ア) 内容の取扱い (2)(3)	81 ～ 85
	10	⑨ひっ算の しかたを 考えよう	A(2) ア (ア)(イ)(ウ) イ (ア) 内容の取扱い (3)	86 ～ 99
10	10	⑩さんかくや しかくの 形を しらべよう	B(1) ア (ア)(イ) イ (ア) 内容の取扱い (5)	100 ～ 112
				〔下巻〕
11	17	⑪新しい 計算を 考えよう	A(1) ア (イ) イ (ア)(3) ア (ア)(イ)(ウ)(イ) イ (ア)(イ) 内容の取扱い (4)	2 ～ 24
12	15	⑫九九を つくろう	A(1) ア (イ) イ (ア)(3) ア (ア)(イ)(ウ)(イ)(オ) イ (ア)(イ) 内容の取扱い (4)	27 ～ 48
1	11	⑬ 1000 より 大きい 数を しらべよう	A(1) ア (ア)(イ)(ウ)(オ) イ (ア)(2) ア (イ) イ (ア) 内容の取扱い (1)	50 ～ 63
	6	⑭長い 長さを はかって あらわそう	C(1) ア (ア)(イ) イ (ア)	64 ～ 71
2	5	⑮図を つかって 考えよう	A(2) ア (イ) イ (ア) 内容の取扱い (2)	72 ～ 79
	5	⑯分けた 大きさの あらわし方を しらべよう	A(1) ア (カ)	80 ～ 88
	5	⑰はこの 形を しらべよう	B(1) ア (ウ) イ (ア)	90 ～ 95
3	2	○計算 ピラミッド	A(2) ア (ア)(イ)(ウ) イ (ア)	96 ～ 97
	4	○ 2 年の ふくしゅう	A ～ D	98 ～ 102

別紙様式第５－３号

編　修　趣　意　書

（発展的な学習内容の記述）

受理番号	学校	教科	種目	学年
104−119	小学校	算数科	算数	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・212 算数・213	新編 新しい算数　２上　考えるって おもしろい！ 新編 新しい算数　２下　考えるって おもしろい！		

ページ	記　　述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
下 109	はこの 形を しらべよう 問題１	1	第２学年２内容Ｂ図形（1）ア（ｳ）「正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し，それらを構成したり分解したりすること。」	0.5
			合計	0.5

（「類型」の分類について）

1 …学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容 (隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む) とされている内容

2 …学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容